

一般用需要暖冬で7.3%減 輸入は121万トのうち米国が85%
～2月LPガス需給実績（5日集計）～

日本LPガス協会がこのほどとりまとめ「LPガス需給統計」（5日集計）によると、2月のLPガス需要は前年同月比5.4%減の1,275千トとなった。供給は輸入が1,206千トの高水準だったことから、在庫（一次基地在庫）は月間97千ト増の1,611千トとなった。

1. <生産> 2月のLPガス供給は、石油精製生産分が前月比58千ト減、前年同月比19.8%減の130千ト、石油化学生産分がそれぞれ4千ト、7.7%減の36千トとなった。2月の原油処理量が暦日数の関係や暖冬による灯油などの需要不振から低水準にとどまったことが、LPガス生産の低下につながった。また、石油化学での生産もエチレン生産量が488千トの低水準にとどまったことから36千トと少なかった。

2. <輸入> これに対して輸入は、1月入着予定船の2月ズレ込みもあって前月比168千ト減、前年同月比9.6%増の1,206千トと昨年2月以来の120万ト超の大量輸入となった。米国メキシコ湾岸での濃霧の発生が船積みを遅らせたほか、中東ターム積みにも数日の遅れが出た。原油減産によるLPガス在庫の減少によるもので、3月積みでも遅れが出ている。なお、1,206千ト輸入のうち米国からの輸入が1,025千トと85.0%を占める。プロパンに限ると1,082千ト輸入のうち米国が999千トで92.3%を占める。

3. <一般用需要> 2月の一般用需要は、プロパンが前年同月比6.3%減の1,033千ト、ブタンが同12.1%減の189千ト、合計で7.3%減の1,222千トにとどまった。暖冬が響いた。東日本と西日本が平年比いずれも1.7℃高、北日本が同0.7℃高。都市ガス需要も同様だからプロパンやブタンの原料用の受入れも低調だった。

4. <輸入船直納需要> 鉄鋼用は引き続き受入れゼロ。化学原料用は九州でのブタン受入れが続いているが、2月は20千ト。電力用は下期に入って初めてのプロパン33千トとなった。姉ヶ崎で受け入れたもの。直納需要計で53千ト。前年同月比76.7%増。

5. <在庫> 以上のような需給の結果、2月末の一次基地ランニング在庫は1月末比97千ト増の1,611千トとなった。高在庫だった昨年2月末比110.5%。ランニング在庫は506千トで1月末比120千ト増、前年同月末比142.5%。法定備蓄量は1,105千トで前年同月末比100.2%。民間備蓄日数が50日分から40日分に軽減されたが減少していない。

2月のLPガス需給実績は次のとおり（単位・千トﾝ，カッコ内は前年比％）。

	プロパン	ブタン	合 計
月初在庫	972 (105.5)	542 (92.8)	1,514 (100.6)
ランニング分	231 (316.4)	155 (206.7)	386 (260.8)
法定備蓄	741	387	1,128
<供給>			
石油精製分生産	95 (88.8)	35 (63.6)	130 (80.2)
石油化学分生産	21 (91.3)	15 (93.8)	36 (92.3)
輸 入	1,082 (121.0)	124 (60.2)	1,206 (109.6)
供 給 計	1,198 (117.0)	174 (62.8)	1,372 (105.5)
<出荷>			
一 般 用	1,033 (93.7)	189 (87.9)	1,222 (92.7)
鉄 鋼 用	0 (--)	0 (--)	0 (--)
化学原料用	0 (--)	20 (--)	20 (--)
電 力 用	33 (173.7)	0 (--)	33 (110.0)
輸入船直納計	33 (173.7)	20 (181.8)	53 (176.7)
出 荷 計	1,066 (95.0)	209 (92.5)	1,275 (94.6)
<在庫>			
月末在庫	1,104 (134.1)	507 (79.8)	1,611 (110.5)
ランニング分	330 (175.5)	176 (105.4)	506 (142.5)
法定備蓄	774	331	1,105

（注）在庫は一次基地在庫